

1) はじめに

歴史を正しく伝えてゆくことはこの上なく大切である。非常に迷惑なのは、故意に史実が曲げられて伝えられる場合のあることであり、歴史の捏造と言われている。私達は長崎大学経済学部の歴史を正しく伝えてゆかねばならない。

長崎高商、長崎経専を経て創立以来百十周年を迎えるに至った長崎大学経済学部の同窓会は瓊林会であり、その中に高齢者を対象としたユニークな瓊林友の会が存在し、三十五周年を迎える。

経済学部構内にある瓊林会館には沢山の蔵書・同窓会誌・アルバム・記念の品々が山と積み、眠っている状況にあった。ところが最近、同期(学5)の荒川和敏、餅田健両兄のボランティア活動で瓊林会館所蔵の図書の見直し・整理整頓が開始され見違えるようになった。

平成26年5月30日の瓊林友の会総会全国大会で餅田氏が東京の皆様にも現状を知っていただこうと写真入りで瓊林会館の蔵書の現状を紹介された。

2) 書籍、雑誌の整理整頓

荒川氏が調査した対象は次の通りである。

アルバム類（卒業・記念式典など）	190点
高商・学部OB・元教授の著作物	270点
在校生校友会誌「扶搖」、同窓会誌「瓊林」	5991点
成隣会館（昭和戦前・戦中期の同窓会館）が保存していた図書	230点
学生向け市販品、パンフ（寮歌祭など）	200点
他組織関連図書	70点
	<u>計 6951点</u>

いずれもその時点で貴重と考え保管されて来たものと推察される。

今後、会誌「瓊林」の定期的な棚卸、散逸寸前にある「卒業アルバム」の修理・復元を行い、更に物故者（OB）が所蔵する母校関連資料の組織的な蒐集が必要であると指摘しておられる。また、瓊林会の本を整理・保存する事務職員が必要とされる。瓊林会費の納入状況が低迷している状況では資金調達が難しいが、「瓊林」に会費納入者の氏名が記載されるようになり納入率の改善が期待される。後述するとき整備には更に多額の費用を要すると考えられ、今回の110周年を記念しての募金に努めなければならない。

3) 文献の閲覧

瓊林会館は風格のある建築物である。若き学生諸君、同窓生が時間を見つけ瓊林会館を訪れ、先輩がお書きになった著書や雑誌を読み、アルバムを見ていただく機会が多くな

ることを夢見る想いである。本は師であり、友である。

そこに机・椅子があり、ソファーが加われば、文献を読み、考え、瞑想することが可能になる。即ち書庫、読書室、休憩室は必要で、資料展示室には全国から集まった出身旧制中学校、高校の校章を陳列し、経済学部歴史を示す年表、記念すべき品々が有ると良い。また経済学部校旗、瓊林会旗のある歴代の経済学部長、瓊林会会長の肖像画や写真が掲げられた会議室が将来計画を練るために必要である。

そして受け付け案内する事務職員が常駐しなければならない。

4) 資料の保管と防災対策

貴重な資料が蒐集される所となれば、利用に際しての保管が極めて必要となる。資料を大切に保管するために日々の努力が欠かせないのは申すまでもないが、先日の瓊林友の会総会が終了した直後の懇親会の席上で御指摘があったのが「火の用心」であった。

十分な防火設備・防火訓練など、火災が発生することなきよう細心の注意が必要不可欠である。漏電事故にも気を配らねばならない。専門家に参加を願い耐火建築を含め検討すべき重要課題と考える。

5) 結語

先人の偉業を偲ぶ場を設けることにより若者の胸が躍ることになれば、吾が母校は着実に発展してゆくであろう。このような歴史資料館の創設により、先輩から後輩へと素晴らしい伝統が引き継がれてゆくことを期待したい。